生産性の高い安定的な畜産経営体の育成

所属名　：曽於畑地かんがい農業推進センター
発表者名：畜産普及係技術専門員　新川裕樹

＜活動事例の要旨＞

曽於地域は国内有数の子牛生産地帯であるが，担い手農家の高齢化などに伴い，飼養戸数と飼養頭数の減少が続いている。このため，地域で共通の子牛出荷目標を掲げ，関係機関･団体一体となった繁殖牛増頭支援に取組んだ。特に，新規就農者や増頭意欲の高い生産者に対して重点支援を行い，規模拡大の実現と経営安定化へ向けた支援活動を展開した。

活動の結果，平成26年度から平成30年度までの５ヶ年間で，新規で畜産経営を開始して定着した新規就農者が８戸定着した。また，50頭以上飼養する生産者は14戸増加した。こうした取組により曽於地域の繁殖牛頭数は減少に歯止めがかかり，前年度と比較して442頭増頭した。

１　計画された活動の課題・目標と策定過程

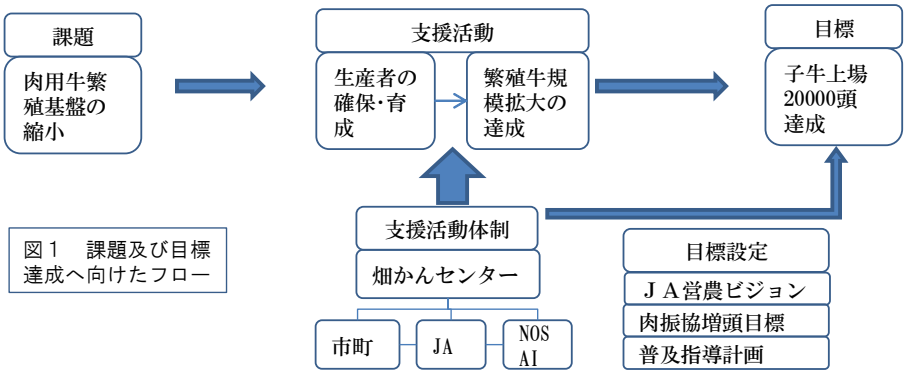

図１　課題及び目標達成へ向けたフロー

(1)　課題・目標と設定理由，及び活動の内容と方法

農業が主産業である曽於地域において，肉用牛子牛生産は地域経済を支える重要な産業であり，減少が続く肉用牛繁殖基盤を維持・発展させることは地域経済にとって喫緊の課題である。このため JA そおを中心とした関係機関は子牛上場頭数20000頭の達成を地域の共通目標として設定し，目標達成のため肉用牛生産者の確保育成と，繁殖牛の規模拡大の実現に対する支援活動を関係機関一体となって展開した。

(2)　計画の策定過程

畑かんセンターでは，普及計画の策定にあたり支援対象として，新規就農者及び規模拡大を志向する中核的繁殖農家219戸に重点をおいた。支援活動としては規模拡大の実現へ向けた経営計画策定と，計画実践支援を中心に行うとともに，地域への波及効果を図る研修体系も確立することとした。

調査研究については，生産技術向上を図るために，生産課題の数値化が可能なものとして，牛の代謝プロファイルテストに基づく飼養改善を設定した。

２　普及活動の内容（調査研究の関わりについても記述する。）

(1)　活動の経過

ア　中核的繁殖農家219戸の規模拡大支援

・新規就農者に対する支援

将来的な担い手として重要な新規就農者に対する支援は，基礎研修など研修体系への参加を促すとともに，個別のカウンセリングに基づく課題解決支援を行った。特にリスクを負って経営を開始する生産者については，綿密な就農計画の策定から，

簿記記帳へ誘導による経営管理能力の向上支援など，濃密な支援を行った。空き牛舎や放牧体系の活用，補助事業の活用などリスク分散を行った事例において，スムーズな経営定着が図られる事例が得られた。

・規模拡大志向者に対する支援

規模拡大志向者においても，個別のカウンセリングに基づく経営計画の策定と実践支援を中心として行った。制度資金の活用による規模拡大を行う生産者が多く見られ，そうした生産者を年度ごとに20戸程度選定し，重点的に資金計画を作成する上での経営課題の抽出と改善支援を合わせて行った。

・生産技術の向上支援とべぶ講座による波及

調査研究としても位置づける牛の代謝プロファイルテスト「べぶドック」に基づく飼養改善支援を年に６戸程度 NOSAI と連携して実施した。血液分析により見た目ではわからない代謝の乱れが数値化され，栄養の過不足などの課題に対してポイントを絞った改善を実践できた。取組の中で地域の課題として粗飼料不足や施肥改善の必要性なども示唆された。こうした改善事例や，ICT など新たな生産技術については年３回実施する増頭支援研修「べぶ講座」で地域への波及を図った。

(2)　指導・支援の体制

肉用牛振興協議会と一体となった活動を行い，研修の共催，統計など調査情報の共有，情報発信などで連携した。生産技術の向上支援では，NOSAI と役割分担し，粗飼料生産や飼料給与改善を中心に取り組むことができた。

３　普及活動の成果

(1)　課題及び目標の達成状況とその要因

子牛出荷数を増加させるため，担い手の育成確保と繁殖牛の規模拡大に取り組んだ結果，新規就農者は８戸が定着し，288頭の増頭につながった。また50頭以上を飼養する生産者は14戸増加し87戸となった。また地域の繁殖牛は平成21年から続く減少に歯止めがかかり，23288頭と前年度より442頭増加した。

成果が得られた要因として，関係機関が共通の目標設定の上で連携して取り組めたことが最も大きかったと思われる。

(2)　活動に対する生産者・農家の評価

新規就農者や規模拡大達成者については相場に支えられたものの経営成績も向上しているところが多く，関係機関に対する感謝の意が示されている。また，べぶドックの受診やべぶ講座の参加もリピーターが増えており，生産者の評価を得る中で地域において定着してきている。

(3)　地域農業振興への貢献

肉用牛生産は，曽於地域において販売額が120億円と主要な産業であることから，繁殖牛増頭が図られたことは地域経済において大きな貢献を果たしたと思われる。

４　今後の普及活動に向けて

(1)　今後の課題

当課題は継続課題であり，さらなる生産者の減少に対応する活動継続，増頭に対応する ICT など生産効率化技術の実証･導入支援，べぶドックの拡充などについて継続実施の予定である。

(2)　今後の活用に向けて

リスク分散によ新規就農定着が図られた事例，べぶドックを中心に整理された飼養改善事例などについて今後も十分活用されるものと考える。